

広報誌



かけはし

2021年
秋号
No.60

TAKE FREE

【開院65周年 記念対談】

未来へつなぐ「飲酒運転ゼロ」＜後編＞

NPO法人はあとスペース 理事長 山本 美也子

雁の巣病院 院長 熊谷 雅之

連携医療機関の紹介 Vol.19

「飲酒運転ゼロ」を誓う黙とう

献血活動

日記な後記

未来へつなぐ「飲酒運転ゼロ」＜後編＞

海の中道大橋飲酒運転事故から15年。粕屋町飲酒運転事故から10年。
様々な節目となる2021年に、飲酒運転の現状と未来への想いについて、NPO法人
はあとスペース 山本美也子 理事長と、当院院長 熊谷雅之に話を伺いました。

熊谷 雅之

医療法人優なぎ会 雁の巣病院 院長
日本アルコール関連問題学会 理事
アルコール依存症の治療に長年従事。
2012年施行の福岡県飲酒運転撲滅条例
に、起草時から携わる。

山本 美也子

NPO法人 はあとスペース 理事長
2011年の粕屋町飲酒運転事故で愛息を
亡くされて以降、街頭活動や全国各地で
の講演活動を精力的に行い、飲酒運転の
撲滅に尽力される。

はあとスペースの現在の活動

山本：コロナ禍になって、私たちの活動も180度変わってしまいました。大好きだった街頭啓発活動もできなくなり、講演活動も去年はほぼゼロになりました。物を配布するのもダメと言われているので、手に取ってもらいやすいものを作ろうと思い、かわいいToDoリストメモを作ったんです。駅や図書館、役場などに置かせていただいたんですが、次々と皆さんが持ち帰ってくれて、あっという間に無くなってしまったんです。駅などで配布することがライフワークみたいになっていましたが、「こういうものを作ると、啓発活動も進むかもしれない」と大きく考えるきっかけになりました。

最近行っているのは、「STOP !! 飲酒運転」と書かれた街頭啓発ベストを着て、月に1回、県道のゴミを拾っています。お手伝いしてくださる皆さんと黙々とゴミを拾うだけなんです。はあとスペースのロゴマークや着ているベストを見て、トラックの人たちがクラクションを鳴らしてくれたり、「ご苦労さん」と声をかけてくれたりします。活動を通して「頑張ってるな」って感じてもらえることは、これからも続けていこうと思っています。

熊谷：山本さんには本当に頭が下がります。もう頑張りすぎて頑張りすぎて。心無い人たちから色々な事を言われたこともあったのに、改めて「すごいな」と思います。例えば事故などでお子さんを亡くされた時に、ご両親が「同じような事が二度と起こらないで欲しい」と仰られるけれど、もし自分がその立場だったら、そんなに冷静ではいられないだろうし、マイナスの感情が先行してしまうと思うんです。「継続は力なり」とよく言われるけれど、山本さんたちが継続して様々な活動をされて結果を出していることは、本当にすごいことです。簡単に真似して実行できる事ではないと思います。ものすごいペースで活動されているので、「山本さんが潰れてしまったらダメだから、力を抜きながら活動しないとね」と話したこともあります。

山本：熊谷院長には本当に助けて頂きました。辛かった心が折れたりした時期に話を聞いていただいて、「続けるためには、活動が楽しめるようになった方がいいよ」「講演に行った先で楽しみがあるといいから、一泊余計に泊

まって楽しんでくるんだよ」とおっしゃっていただきました。「そういう風になれたらいいな」と思うことで、楽しんで活動ができるようになり、色々な方から「最近笑顔がよく出るようになりましたね」って言われるようになりました。また、講演活動が無い時は「山本さん寂しきろう？」とも言われたんですが、自分自身を振り返る期間や充電期間になり、逆に凄く元気になって、心も穏やかになったんです。これまでは長男の事故のことを「細かく伝えていかないと」と思っていたんですが、意外とそうではなく、「私には長男を飲酒運転で亡くした過去があります」という一言で、皆さんが色々なことを察してくれて、「色々なことを言わなくてもいいんだな」って思えるようになりました。

フリーペーパー「TOMOs」



山本：伝え続けていくことを止めないように、フリーペーパー「TOMOs(ともす)」を年間3回発刊しています。雁の巣病院でも「かけはし」の横に置かせていただいています。全国の人たちにもっと知ってもらえるよう、置いていただく所を地道に増やし続けています。現在は5万部発刊していて、全国の飲酒運転事故の遺族の方々にもすごく興味を示していただいています。最近では、東名高速道路での飲酒運転事故で娘2人を亡くされた井上さん夫妻に、4年間住まれていたオーストラリアと日本との交通事情の違いについての連載にご協力いただいたり、TOMOsの全国への配送費を支援していただいたりしています。また、事故の賠償金から設立された「かなちか基金」のマークが誌面に入るよ

うになりました。色々和形になって、縁が広がっています。熊谷：こういった話を聞くと「私たちにできる事って何だろう」と考えさせられます。当院で言えば、飲酒運転に限らず、アルコール依存症で苦しめる人たちに「何かできることは無いかな」と。

ひとつの手段として考えられるのは、色々な機関がタッグを組んで、ネットワークを作ることです。「病院ではこれができる」「山本さんのところはこれをしてくれる」と役割分担して取り組むことが大事だろうと思っています。しかし、私たちだけでできることは限られているので、行政などで動いてもらわないといけな所はあります。例えば、夏号でも話した「飲酒運転事故を起こした人たちの中で、アルコール呼気濃度が高濃度の人たちをどうするか」という問題は、私たちだけではどうしようもありません。こういった人たちの多くが、自身がアルコール依存症であることに気づいていないんです。早期のアルコール依存症の人たちを見つけることはもちろん大事ですが、重度の人たちに対しても「アプローチできる良い方法は無いのかな」というのが、今の課題であり、私の一番の想いです。

今取り組んでいるのは、『「私たちが病院で待っている」ということだけではダメだろう」と考え、福岡県が行っている「飲酒運転撲滅活動アドバイザー派遣事業」に当院のスタッフ(12名)がアドバイザー登録し、県内各所で講演などの啓発活動をしています。確かに、運転免許の更新時などでも、大事なことは講習してくれます。飲酒運転事故の映像を見ると、「これはイカン」と思って意識が高まりますが、やっぱり時間と共に薄れてしまうんですよね。だからこそ、定期的に繰り返して啓発していかないとダメです。そういった視点では、山本さんたちが継続して活動していることは、とても大事なことなんだろうな、と思っています。

皆さんへのメッセージ

山本：飲酒運転はゼロなのが当たり前なので、その当たり前の社会がたくさんの方々の協力を得て、ゼロが「〇(マル)」という輪になっていくといいなと思っています。遺族だけではなく、病院や断酒会の皆様、元加害者と呼ばれる

皆様、企業、行政、マスコミなど、様々な人たちが一緒に力を合わせて、「飲酒運転はゼロなのが当たり前」の社会になるように、これからも頑張っていきたいと思っています。私は飲酒運転被害者遺族として本当に些細なことしかできませんが、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



熊谷：「飲酒運転ゼロ」というのは、よく考えてみたら本当に当たり前なんですよ。当たり前なのに「なぜそれができないのか」ってところで、色々な方たちが苦労しています。講演などでもよくお話ししますが、飲酒運転事故は、被害者が苦しいのはもちろんのことですが、加害者も苦しんでいるんです。その加害者の人たちの中に、私たちが関わっているアルコール依存症と思われる人たちがたくさん存在しています。依存症は病気なので、治療すれば治る可能性は十分にあります。ですから、自身や周囲の人で思い当たるところがあれば、かかりつけの医療機関や地域の相談機関などに相談してほしいと思います。何よりも一番なのは、山本さんが言われたように、飲酒運転ゼロが当たり前の社会になってほしい、本来はそうであらう、ということではないでしょうか。



NPO法人 はあとスペース
あなたのモラルで、社会を変える
<http://heart-space.net/>





「飲酒運転ゼロ」を誓う黙とう

「福岡市海の中道大橋 飲酒運転事故」より15年が経過しました。福岡県・福岡市では、この事故の記憶を風化させることなく、飲酒運転の無い社会を実現するため、様々な取り組みを行っています。

そのひとつ、8月25日「飲酒運転撲滅の日」の正午に「飲酒運転ゼロ」を誓う黙とうをする取り組みに、当院は今年も賛同しました。

各職員がそれぞれの場所で黙とうを行い、「飲酒運転ゼロ」を誓いました。



献血活動

奈多校区献血推進協力会が主催の献血活動が、今年も9/25に当院駐車場で実施されました。

清々しい秋空のもと、当院の周辺地域にお住いの方や、遠方から予約して来られる方、初めて献血される方など、今年もたくさんの方々にお越しいただきました。当院職員も、微力ながら協力させていただきました。

活動運営や献血にご協力いただいた皆様、日本赤十字社の皆様、ありがとうございました。



日記 後記



作業療法課
日高 佳那子



先日息子から「秘密基地を友達と作っている」という話を聞いて、「令和の小学生も秘密基地を作るのか!」と驚きました。皆で試行錯誤し、役割を分担しながら、それらしい基地作りに取り組んでいるようです。

小学校では今年からタブレットが貸し出され、宿題の丸付けは自動で行われています。家では動画を見る機会が多くなり、子供同士の遊びもゲームが中心になっています。そんな状況に時代の変化を感じていましたが、共に作り上げる喜びは、今も昔も変わっていないようです。

作業療法では、共同作業を通して喜びを感じる瞬間に立ち会えることが多くあります。息子との会話を通して、そういった体験の一つひとつ大切にしていきたいと、改めて思いました。



医療法人

加藤神経科クリニック

加藤 裕二 院長

加藤 朋子 副院長



< 診療科 >

精神科・心療内科

< 診療時間 >

月・火・木・金曜

9:00～13:00 14:00～18:00

水・土曜

9:00～13:00

日・祝日

休診



< アクセス・リンク >

福岡市博多区千代4-21-28

TEL 092-651-2610

URL www.kato.server-shared.com/index.html



加藤院長より

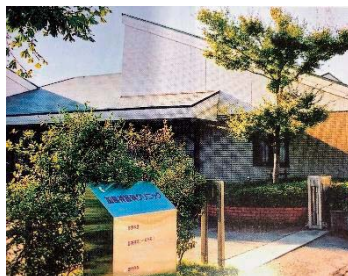
当クリニックは1991年に現在地にリニューアルして、無床診療所として再開院しました。それまでは85床の小規模精神科病院として、長年入院治療を中心に患者さんの治療を行ってききましたが、統合失調症の治療の中心が入院治療から外来治療へと大きく変わっていく中で、デイケアや訪問看護を取り入れた包括的な外来診療へと舵をきりました。

再開院から30年を経て、来院する患者さんが徐々に変わってきました。それまで中心であった精神病圏の患者さんは減り、うつ病や神経症圏の患者さんが大半を占めるようになり、若い世代から中・高年の方まで幅広く来院されるようになりました。

仕事の悩みを抱えて生きづらくなって援助を求めて来院される方も多くなり、治療の面でも単に薬物治療のみではなく、カウンセリングやリワーク（復職支援）、認知行動療法などを多面的に活用していかないといけない事例が増えてきました。そのため、医師だけでなくコメディカルスタッフと共に協力して治療にあたっています。

また、女性特有のライフイベントに関わる問題も多く、きめ細かな対応を必要とすることもよくあります。妊娠中や出産後の問題や、子育ての悩みなどを抱え込んでしまっている女性の方もたくさんいらっしゃいます。女性医師やカウンセラーが関わることで、うまくその時期を乗り越えることも可能となります。

現代は超高齢化社会を迎えており、個々の身体機能や認知機能の衰えはもちろんのこと、人間関係を含めた生活全般に渡る生活のしづらさを感じている高齢者もいらっしゃいます。同じく高齢を迎えた配偶者との関係であったり、子供や孫への心配であったり、狭い中での他者との人間関係に疲れてしまったりという相談もとても多いです。これも私たちの診療の一環であると考え、相談を受けています。



当クリニックのような外来医療には、状態が悪くなった時の入院医療が切れ目なくスムーズに行える「病診連携」がとても大切です。その意味で、雁の巣病院がいつでも受け入れてくださることは、とてもありがたく思っております。「不安の時代」が今まさに来ていると言えるかと思いますが、受診した方々が少しでも安心を得て、それぞれの生活に戻っていられることを願って、日々の診療を行っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

医療法人優なぎ会

GANNOSU HOSPITAL

雁の巣病院

精神科・心療内科

内科・リハビリテーション科・歯科

293床(精神病床264床,一般病床29床)

〒811-0206

福岡県福岡市東区雁の巣1丁目26番1号

TEL 092-606-2861

FAX 092-607-2211

<http://www.gannosu.org>



納得のいく医療

患者・家族の皆様、そして私たちが
納得のいく医療の実践に努めます



診療時間

平日 9:00 ~ 17:00

土曜日 9:00 ~ 12:00

日・祝祭日 休診

外来受診は予約制となっております。

ただし、急患の際はこの限りではございません。

24時間365日、ソーシャルワーカーがご相談を
お受けします。まずはお電話にてご相談ください。

面会時間

9:00 ~ 19:00

アクセス

【車でお見えになる方】

- ・高速道路利用
九州自動車道 古賀インターから約20分
- ・都市高速道路利用
福岡都市高速道路・香椎浜ランプから約10分

【西鉄バスをご利用の方】

系統：21A番,21番,210番,220番
バス停「雁の巣」下車 徒歩 約2分

【JR九州をご利用の方】

香椎線(鹿児島本線 香椎駅で乗り換え)
雁ノ巣駅 下車 徒歩 約5分

関連施設

医療法人優なぎ会

訪問看護ステーションがんのす

〒811-0206 福岡市東区雁の巣1丁目26番1号
TEL 092-609-9119



医療法人優なぎ会

もりもと病院

〒847-0056 佐賀県唐津市坊主町441
TEL 0955-72-5176



医療法人共和会

小倉リハビリテーション病院

〒803-0861 北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1
TEL 093-588-0668



社会福祉法人 松寿会

特別養護老人ホーム こくらの郷

〒803-0275 北九州市小倉南区高野4-12-11
TEL 093-453-1100

